

プレスリリース

新潟市美術館

突然の火災により、作家としての死を迎え、ネコになることを考えた美術家。ネコ用品に見立てられた美術館のコレクション。それぞれのセクションがレイヤーとして干渉し合い、目と頭と心を揺さぶります。

大村益三とその残欠

－「ネコになる」という選択肢－

会期：2024年4月26日（金）～2024年6月30日（日）

現代美術家・大村益三の作品（焼損作品を含む）・資料・文献約50点を展示

一人の美術家を（彼を見舞った大きな不幸を）ご紹介します。美術家・大村益三は、2023年12月29日朝、東京都町田市の共同アトリエで発生した火災により、過去40年にわたる自作のほとんど全てを失いました。そして彼は、「レンブラントの作品よりも、ネコの命のほうが大切」という、フランスの彫刻家ジャコメッティの言葉を思い返したといえます。作品を失い、命は残った自分を、もう「作家」と呼ぶことはできない、**ネコのようなもの**であると。

大村益三（おむら・ますみ、1957年、東京生まれ）……1981年、多摩美術大学大学院美術研究科修了。「美術」概念を解体する批評的制作で評価を集め、コバヤシ画廊（東京・銀座）をはじめ個展多数。多摩美術大学、女子美術大学などで非常勤講師をつとめた。SNS等を通じて達意・博識の文章家としても知られる。

ブログ「〈B術の生態系〉Bな人のBな術」<https://murrari.hatenablog.com/>

協力：東間 嶺（ナミイタ Nami Ita）、吉川陽一郎、冨井大裕、大村益三、コバヤシ画廊

同時開催：コレクション展 ニャンーネコ用品専門展ー

当館コレクションから大作を中心に約50点を、ネコ用品に見立てつつ、5つのセクションで展示

さて、この星に生きる全ての人間が命を失った時（人類滅亡）、地上に残った美術館の廃墟は、ネコの集会場になるかもしれません。この小さな展覧会は、わたしたち人類ではなく、ネコたちのために開かれます。「芸術＝用途のないもの」は、**ネコ大よろこびのネコ用品**に通じ合うものではないでしょうか？

休館日：月曜日（ただし4月29日、5月6日は開館）、5月7日（火）、6月4日（火）～6月7日（金）

開館時間：午前9時30分～18時00分（観覧券の販売は閉館30分前まで）

会場：新潟市美術館 常設展示室

観覧料：一般200円（160円）、大学生・高校生150円（110円）、中学生・小学生100円（70円）

*（ ）内は団体（20名以上）料金

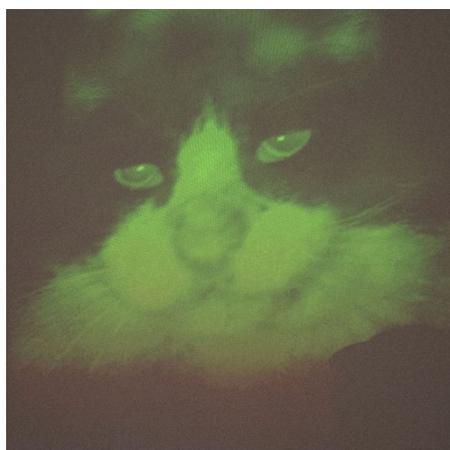
*土・日・祝日は中学生・小学生無料 *当館主催の企画展開催中はその観覧券でコレクション展もご覧になれます。また、中学生・小学生は企画展と合わせて無料となります。

展覧会公式ページ

（リスト、作家略歴、担当学芸員テキストなど掲載中）

<http://www.ncam.jp/exhibition/7661/>

会場風景（提供可能）



以上の画像を含むパッケージを、
次の URL よりご自由にダウンロード可能です。

- tif 版 16 点 (約 680MB) ; <https://xgf.nu/Sc3tC>

- jpg 版 16 点 (約 26MB) ; <https://xgf.nu/wX6S3>

*ダウンロード期限：2024 年 8 月 20 日(火)

上掲の画像・上記 URL よりダウンロード可能な画像に限り、事前の掲載申請は不要です。

いずれの画像も、トリミングは自由、クレジットは不要、キャプションについても特に指定はありません。

ご紹介くださる場合、事後でも差し支えありませんので、下記アドレスまでご一報いただけましたら幸いです。

新潟市美術館

担当：藤井素彦 (m03.fujii@city.niigata.lg.jp)

〒951-8556 新潟市中央区西大畑町 5191-9

TEL : 025-223-1622 FAX : 025-228-3051